

これからよろしくお願ひいたします

埼玉県立歴史と民俗の博物館資料調査・活用担当 学芸員 濱田翠

今年度よりお世話になります、資料調査・活用担当の濱田翠と申します。主に収蔵庫の環境管理や資料の管理をしております。専門は保存科学で、昨年度までは文化財関係の研究機関におり、主に染織品や絵絹の調査研究に関わっていました。博物館での勤務は初めてなのでわからないことだらけですが、精いっぱい努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

保存科学に興味をもったきっかけは、大学の進路を決めるときにテレビで千手観音の修復の特集を観たことでした。幼いころから両親に博物館にはよく連れて行ってもらっていたのですが、文化財に携わる職業というものを意識したことがありませんでした。しかし、テレビを観て、こんな世界もあるんだと感動し、文化財の保存修復が学べる大学に進みました。残念ながら、入学時には修復の先生は他大学に移動してしまっており、修復技術は学べなかったのですが、文化財を科学的に調査するという文化財科学・保存科学に出会い、のめりこんでいきました。大学では遺跡から出土する黒曜石製石器の産地推定をテーマに研究していました。

「保存科学」には有害生物管理や温湿度の管理等の文化財の周辺環境の整備から、文化財資料の材質を分析し保存に生かすという研究も学問の範囲に入ってきます。一言に文化財資料といっても材質は多岐にわたります。また、科学は日々進歩しており、現在の常識が10年後20年後には変わっている可能性もあります。そのため、視野を広く持って、常に最新の研究を追い続けなければいけません。そこが大変でもあり、楽しくもある分野です。博物館ではそういった知識と、これから経験を積み重ねていって、文化財をより良い状態で後世に残していけるよう努めてまいります。

地中にねむる文化財のおもしろさ

埼玉県立歴史と民俗の博物館展示担当 学芸員 尾崎 沙羅

本年度、就職いたしました尾崎沙羅と申します。常設展示第1室の管理・運営や、また民俗芸能講習会などのイベント運営を担当いたします。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

専門分野は考古学で、とくに旧石器時代や縄文時代といった先史時代を勉強してきました。前年度は、千葉県千葉市の埋蔵文化財調査センターにて考古遺物の調査等を行っておりました。博物館での仕事は初めてですので、皆さまに興味を持っていただけるような展示ができるよう精進します。

考古学、なかでもとりわけマイナーな旧石器時代に、私がどうして興味をもったのかということをよく人に尋ねられます。それは、ネイティブアメリカンやイヌイトなど、遠く地球の反対側に住んでいる人々が自分と同じモンゴロイドであり、またその容姿が日本人とよく似ていることに、驚愕したことがきっかけです。何か自分の知らない人類史があるのではと考え、グレイトジャーニーという人類拡散の経緯を知りました。そこから、電気もない極寒の時代に人々は何を利用し、どのように生き延びたのかということに興味を持ち、何万年もむかしについて勉強したいと思うようになりました。

今後のイベントスケジュール

*申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 7月15日(日) 講演会「鎌倉期武蔵の街道と人・モノ・文化」 <前号で紹介>
- 7月18日(水) プレミアム講座「みる・よむ・調べる埼玉の古文書」 <前号で紹介>
- 8月8日(水) お宝たんけん 国宝・正福寺地藏堂 <今号で紹介>
- 8月26日(日) 日本の祭り研究クラブ「下名栗諏訪神社獅子舞・飯能市立博物館」 <今号で紹介>
- 9月12日(水) 友の会主催見学会 藤沢・横浜方面 <次号で紹介>
- 9月25日(火) 古道探索倶楽部 第26回 武蔵浦和駅集合 <次号で紹介>

友の会見学会「岩槻・忍城落城物語り」

平成30年(2018)/06/16に開催 33名が参加

お天気が心配な小雨の朝、バスの出発時にはほぼ止み、梅雨時としては蒸し暑くなく、歩くには快適な見学会日和とも言えます。今回の見学会は、特に天正17~18年(1589~90年)の秀吉の北条攻めにスポットライトを当てた埼玉バージョン。慈恩寺の鉄灯籠は岩槻城の守りの中心となる家老・伊達与兵衛房実が寄進したもの。屋外でもあまり錆びずに残っていることにオドロキ。現在の鉄材との違いの解説もあり。



慈恩寺を後にして岩槻城周辺は、この地区のガイドのベテランでもある犬走東道さんの案内をお願いしました。お手製の大地図を示して、鎧宮八幡神社~愛宕神社~大構遺構~城址公園~新曲輪を巡りました。鎧宮八幡神社は、寄せ手の浅野軍に合流した徳川家康の軍が鎧具足に身を固めた神社とされています。小さな神社ですが、狛犬が子連れの獅子であることを面白く感じました。

次に立ち寄った愛宕神社、岩槻城の大構の土塁上に建てた立地が珍しい。土塁の向こう側を堀が取り囲んでいたそうです。この後、さらに城の遺構を求めて、城址公園付近を歩きました。城を取り囲んだ浅野軍が攻めたであろう”黒門”や薬医門形式の裏門を見学。大構の堀が障子堀の形態になっていたことも教わりました。午後は、高速道を利用して行田のさきたま古墳公園に向かい、新レストハウスで持参の昼食を摂りました。

丸墓山古墳の上から石田三成が遠望し策を練ったとされる忍城攻略の水攻めを想像しました。さらに、下に続く石田堤に沿って歩きました。「成田記」や小説「のぼうの城」の一節も参考に示されました。石田堤を訪ねて、行田市の県指定史跡表示板から、鴻巣市の石田堤史跡公園を往復。途中、堤が決壊したと伝えられる堀切橋を渡ります。オシャレな橋です。近くの案内表示によれば、昭和8年に架けた橋で、土木遺産に指定されています。

行程の終盤は、忍城跡に近づきます。まず、行田市郷土博物館の展示見学。学芸員の方の分かり易い説明が印象的でした。(中略)今から400年以上前の埼玉の地で濃密な人間ドラマがあったことを改めて思い知った一日でした。(詳細、写真はブログをご覧ください 西本豊司 記)

『JUNO』にエッセイや旅行記・書評などの原稿を送ってください

◎友の会の機関誌『JUNO』で広く会員の皆様の原稿を募集します。内容は自由ですが、友の会や博物館活動に関連したもので、300~400文字程度。編集委員会で検討の上、誌面に掲載します。内容・テーマにより巻頭エッセイへの掲載をお願いする場合があります。送り先は「博物館内友の会」あて郵送。またはEメールで pu8n-tki@asahi-net.or.jp まで。

鎌倉街道 栗橋から古河まで

友の会・古道探索倶楽部 5月26日に開催

天気快晴。参加者30名。朝から暑さが心配されましたが、思った程でなく、絶好の散策日和となりました。栗橋駅前の『静御前の墓』(久喜市指定文化財)は、三年前に訪れた時よりずっと整備されており墓前祭は、毎年9月15日に行われ、10月第三度土曜日には、時代絵巻パレードが盛大に行われるという。(略)ここの神輿は日本三大神輿と言われる程立派で7月の大祭には近在の祭り客で賑わいます。



利根川を渡ると茨城県。『鶴峯八幡宮』は、源頼朝が鶴岡八幡宮より勧請したことにより鶴峯八幡宮と称したと言われる。

その後日光街道の鎮守として旅の安全を祈る社として有名となった。旅の者は現在でも、社の前で足踏みをして旅の安全を祈願している。『光了寺』は、当時の住職が、親鸞聖人の教えを受けて浄土真宗に改宗したという。静御前ゆかりの寺として知られ、静御前の守り本尊、義経形見の懐剣や親鸞聖人作といわれる木造聖徳太子立像などが所蔵されています。

民家園「旧飛田家住宅」は、常陸地方によく見られる曲がり屋で、茨城県下最古のものとして国指定文化財の指定をうけています。「旧中山家住宅」は江戸初期の武家出身の方が帰農し代々組頭などを勤めた旧家を移築したもので、県指定文化財である。この民家園の裏には、古河公方館跡の碑が残っている。この地は、鴻巣御所とも呼ばれたといわれています。『長谷寺』は、室町時代に足利成氏が鎌倉の長谷観音を勧請したもので、古河城の鬼門除けとしたもの。『鷹見泉石記念館』は古河藩士の武家屋敷が、膨大な資料とともに残され国の有形文化財となりました。(以下略ブログに詳細)

◆「下名栗諏訪神社獅子舞並びに飯能市立博物館見学」(飯能市)◆

8月26日(日) 友の会「日本の祭り研究クラブ」第27回見学会のお知らせ(参加自由)

- 《名称》「下名栗諏訪神社獅子舞並びに飯能市立博物館等見学」(飯能市)
 - 《期日》8月26日(日) 10時00分～18時00分：雨天決行
 - 《集合》西武池袋線「飯能駅」改札出口 AM9時30分(バス「名郷行他」乗車「天覧山下並びに諏訪橋」下車)
 - 《費用》交通費(電車・バス代等)、保険代他100円
 - 《持物等》歩きやすい靴並びに飲物・昼食・カメラ・傘等
- 下名栗の獅子舞は、青梅市成木の高水山から伝わってきました。文化年間(19世紀初め)に習い初め天保14年(1843)に正式伝授される。以来戦時中も含めて休むことなく伝承されてきた。昭和41年(1966)名栗村文化財第1号に指定され、同62年(1987)には埼玉県指定無形民俗文化財になる。小学2年生から80代まで幅広い年齢層が一同に会し、新たな来住者や女性の積極的な参加もあり、地域にとってかけがいのない集団となっている。豊富な練習によって、高度な内容に派手に「狂う」勇壮さを加え、県内にある約200の獅子舞を代表する舞となっている。午前中は、4月リニューアルオープンした博物館と能仁寺を訪れます。獅子舞の見学は午後の部を予定。曲目は『女獅子隠し』『白刃』等
- 《申込み》下記の連絡先までお願い致します。
 - 《連絡先》元木孝 TEL: 0493-54-0401 (携帯 090-2259-1673) Eメール(qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp)

友の会からのお知らせ

会の活動にご参加・ご協力ください

- ◎友の会のすべての事業・運営は会員のボランティア活動で行われています。会報『JUNO』の製作や印刷、発送も会員が集まって毎月行っています。
- ◎簡単なことから事業(見学会、講演会、クラブ活動)の企画運営まで、あなたもぜひ、余暇時間を「友の会」のためにお割きください。資料作成など自宅でできる作業もあります。
- ◎協力ご希望の方は、土日の受付やホームページの送信フォームなどからご連絡ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 スポット見学会

お宝たんけん

国宝・正福寺地蔵堂

千体の小地蔵に込められた庶民の願い

正福寺地蔵堂は、都内に2つある国宝建造物のうちの一つです。堂内には多くの小地蔵尊像が祀られ、千体地蔵堂とも呼ばれています。この堂は応永十四年（1407）に建立され、火災などにより幾度となく危機的な状況にさらされながらも創建当時の姿を今日に伝え、禅宗寺院建造物の代表的遺構として国宝に指定されました。毎年8月8日の施餓鬼供養の日には堂内部の拝観が許されます。この貴重な機会をとらえた見学会に是非ご参加ください。拝観の前に近くの東村山ふるさと歴史館を訪ね解説を受ける予定です。

日時 平成30年08月08 日(水) 雨天催行
集合時間 午前10時(時間厳守)
集合場所 西武新宿線・国分寺線 東村山駅 西口駅前広場
参加費 500円(東村山ふるさと歴史館発行図録-400円-を別途レジュメとして購入下さい)

行程 10時30分～11時30分
東村山ふるさと歴史館
12時～13時
境内・堂内拝観・現地解散

注意事項 地蔵堂の床は土間の為、傷をつけない底の平らな靴での拝観をお願いします



ご参加の申込は

①通常はがき 見学会名・住所・氏名・会員番号・ご連絡先(できれば携帯)を明記の上、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 宛 お送り下さい

返信は致しません。お申込みいただければ参加できます。

「友の会ホームページ」にある「申込フォーム」からでも参加申込出来ます

★締切〇7月25日(水)

★会員限定ですがご家族、友人は同伴参加できます。

見学会に関するお問い合わせと当日緊急連絡先 090-2404-9553 中村均